

「キリスト者を生きる」

助任司祭 林 正人

先月の7日、東京カテドラルで司祭叙階式があり、“例によって”私は祭壇奉仕役に駆り出され、チョコマカ祭壇周りを動き回りました。当日は雨にもかかわらず、この高円寺教会からも沢山の方々が式に参列して下さいました。それ以外の皆様も、それぞれの場所で、同じ時刻にお祈り下さったと思います。先輩（一応！）司祭として、皆様に感謝致します。

3人の受階者が司祭になる姿を見ながら、自分の叙階式のことを思い出していました。3月7日は、私の叙階記念日でもあったのです。あれから6年、決して順風満帆ではありませんでしたが、幸い現在も司祭を生きております。神様の恵みと、信徒の皆様の祈りのお陰です。

私の最初の赴任地は目黒教会で、主任は、かつて高円寺教会で助任をしておられた立花昌和神父様でした。私が赴任する直前の主日、立花師は目黒の信徒の方々にこう言われたそうです。「新司祭が生きるも死ぬも、最初の赴任地の信者にかかっています」と。司祭に叙階される、それは確かに一つの節目ではあります。しかしそれは決してゴールではありません。むしろそこからスタートなのです。“司祭になる”ことはできても、“司祭を生きる”ことができるかは、叙階されてからの歩みにかかっています。それには、本人の精進も勿論必要ですが、信徒の皆様の祈り、叱咤激励が不可欠です。人が一人では生きていけないように、司祭も一人では、司祭として生きていけないのです。

これは、司祭だけではなく、キリスト者も同じです。私たちには洗礼の秘跡によって、“キリスト者になる”恵みが与えられます。しかし、“キリスト者を生きる”ことができるか、これには先輩信者の祈り、激励が不可欠です。私たち高円寺教会の共同体には、今年も多くの仲間が加わりました。この新たな仲間が“キリスト者を生きる”ことができるか、それは先輩キリスト者である私たちの責任でもあるのです。

皆様、主の御復活おめでとうございます。新たに受洗された皆様、ようこそ高円寺の共同体へ。共に手を携えて、キリスト者を生きてまいりましょう。